

初任研オリエンテーリング研修

平成 23 年 8 月 3 日（水）・9 日（火） 白山市 舟岡山

【今年も初任研 O L を指導して】

森田 輝雄

うだるような猛暑の中、今年も鶴来町の「白山青年の家」及びその周辺で、今年の 4 月に県内の公立学校に新しく採用された先生方にオリエンテーリング（O L）の指導を行った。

3 年間連続の依頼であり、この O L が初任教員研修で有効なプログラムであると主催者が判断した為であろう。今年は総勢 2 3 1 名で、2 回に分けての研修であった。たぶん団塊の世代の大量退職の結果であろう。

私は今回の指導目標を“真剣に競技させること”とした。炎天下の中で、やらせられる O L が楽しいはずがない。早く終わってほしいと願っているだろう。そこで、「これから先生として子ども達を動かす場合、子どもの身になって行動してね」と訴えた。すなわち、子どもをその気にさせる工夫を取り入れた。

コースを単純化し、道をつないでの地図読みで、容易にコントロールに到達できること。個人競技ではあるが、各クラス上位 2 0 位まで得点を与え、班別に競わせたこと。熱中症が心配だったので、水筒を持たせたこと。

上位入賞者表彰もさることながら、班別表彰が盛り上がった。たった 1 個のスイカの商品だったが、それ以上の効果があったようだ。この O L で道に迷い、苦労を重ね、悔しい思いをした人も多かったようだ。その悔しさを次につなげてほしいため、敢えて速報成績を宿泊研修が終わるまで、ロビーに掲示した。

事後指導では、自分の進んだ道を赤ペンで記入させた。いかに無駄な動きをしているか知ってもらうためだ。帰り際「先生、ありがとうございました。」との言葉で、一日の疲れが吹っ飛んだ。

（石川県オリエンテーリング協会 副会長）



（森田副会長による事前指導（白山青年の家 大研修室））

【初任研オリエンテーリング 参加者の感想（抜粋）】

運動すること、特に走ることが好きな私ですが、初めてのオリエンテーリングにスタート前は陸上競技の前のような緊張感を感じました。しかし、スタート直後に1のポイントを通り過ぎてしまい、「オリエンテーリングは足の速いものではなく、迷わないものが勝つ」と走る前に言われたことを思い出し、その言葉を痛感しました。そこから遅れた分を取り返そうと必死で地図を見て走り、大きなミスなくゴールすることができました。普段生徒たちに伝えている“やるからには真剣に、最後まであきらめない”ということをもっと示すことができたことが一番嬉しかったです。

（中学校教諭 女性）

最後のお話の中で「もう一度やりたい」という気持ちにさせる事が大切であり、そのために運営



コントロールを見つける研修生たち

する側として道具や準備を一切手抜きせず、一生懸命行うといわれていました。わたしがオリエンテーリングに純粹に参加して“楽しかった”と思えたのは、運営を一生懸命してくださった人たちのおかげなのだと思えて学ぶことができました。同じように生徒たちに“楽しかった、またやりたい”といういろいろな行事や活動を通して思ってもらえるように、教員として運営側で自分にできることを手を抜かずに一生懸命やりたかったです。

（高等学校教諭 女性）

教師側の視点から、いくつか学んだことは、万が一の時や体調不良など、常に子どもに対応できる環境にしておくことが大切であると思いました。また、ゴール近くで応援するなど、みんなで讃えあうことも大切かと思えます。次に、競技者の視点から私とはとにかく競技を楽しむことができました。道行く道をかき分けて荒地を進んだり、山を進んだり、小学校の低学年にもどったような気持ちでワクワク・ドキドキしていました。自分にとって何か新しいことにチャレンジできたというのが大変良かったと思います。

（中学校教諭 男性）

スタート前は大変不安を感じていました。しかし、こういうときこそ「自分に挑戦してみよう」と思い、最後まであきらめずに取り組みました。結果、3位に入賞し、本当に大きな達成感と充実感を味わうことができました。それと同時に、この気持ちを子どもたちにも味わわせてあげたいと心から思いました。オリエンテーリング後の班の反省では、子どもたちにオリエンテーリングをさせる際に周到な準備あるいは安全の確保が本当に大切だと意見が出ました。また、「これをしてはいけない」とすぐに言うのではなく、少しは冒険させることが良いという言葉が大変印象に残っています。今後、子どもたちにはいろいろな体験をさせることが本当に大切だなと実感しました。

（小学校教諭 男性）

汗を拭きながら地図を確認し、ポストを探して走ると言うのは思った以上につらく、体力がどんどん消耗しました。しかし、ポストが見つかった時は嬉しくて、1つ1つゴールに近づいていく実感がとても気持ち良かったです。最後の山登りでは、偶然仲間と合流し一緒にゴールを目指しました。登りも下りもきつくて長い道のりでしたが、最後まで競い合って走りました。「最後までやりきった」という達成感や充実感を得ることができました。今回の経験を通して、私も自分のクラスの子もたちに同じような気持ちを味わわせて見たいという思いになりました。達成感や充実感を味わわせることは、オリエンテーリングに限らず学校現場などのあらゆる場面で可能かと思います。そのような機会を作っていくことが教師である私の役目だと思い、これから先の教員生活で是非取り入れさせていただきたいと思いました。

(小学校教諭 女性)

ゴールした時の達成感がたまらない。チェックポイントが中々見つからずあきらめかけることが何度もあったが、自分に負けないよう気持ちを切らさずに走ったことで、ゴールの瞬間がより嬉しいものとなりました。

自分の力で進んで、チェックポイントが見つかったときの嬉しさ、この道であるのかなど不安など思い返してみると走っている途中にもたくさんの気持ちが表れて、オリエンテーリングはとても魅力的な競技だなと感じた。子どもたちに与える達成感や喜びはとてもすごいものだろうなと思いました。

競技を行うにあたって、主催側の周到な準備があって始めて参加者が楽しめることを実感することができた。安全面の配慮や細かい地図、タイムの計算など自分が思っていた以上に大変な仕事だなと思った。今後は学んだことを子どもたちに伝えていきたいと思う。

(小学校教諭 男性)



帽子を落としながらも猛ダッシュ!!

このオリエンテーリングを通して、生徒の立場で活動を純粋に楽しめたことはもちろんですが、指導者としての立場で別の視点で見ることができ、準備や安全管理の大変さを身にしみて感じることでとても勉強になりました。個人や班の結果にももちろん満足していますが、何よりもそういったことをこの体験から学ぶことができたことが一番の収穫だったと思います。今後、自分が指導者として活動をする際に、ぜひ参考にしたいと思います。

(特別学校教諭 男性)

とても暑い日だったこともあり、途中心が折れそうになりながら、舟岡山の山頂へ到着した時にはなんとも言えない爽快感がありました。また、ゴールしたときには、最近あんまり感じるができなかった達成感を味わうことができました。

子どもたちのもこの気持ちを味わわせてあげたい、そう感じたとき、これだけの活動を万全に行なうための準備や配慮に気づきました。あんな山の中へは当然車は入れないので、重いチェックポイントを山頂まで運んだ苦勞を考えると頭が下がります。そして、そんな苦勞を見せず私たちの活動を温かく見守ってくれたスタッフの皆様に感謝しています。

(小学校教諭 女性)

(編集室注) 誌面の都合により、頂いた感想の一部を抜粋して掲載させて頂きました。